

中央大学学会白門化学クラブ支部

# 白門化学クラブ会報

第9号（総会・中田常雄先生を偲ぶ会報告）



写真説明：表紙裏をご覧ください。

平成 26年 10月 10日 発行  
中央大学学会白門化学クラブ支部  
〒112-8551  
東京都文京区春日 1-13-27  
中央大学理工学部応用化学科内  
白門化学クラブ事務局  
E-mail: hakumon-kagaku  
@gakuinkai.com  
URL: <http://www.gakuinkai.com/hakumon-kagaku/>

## 人の動き

### よろしくお願ひします (入会)

飯田宗孝 (第30回昭和57年卒) 埼玉県ふじみ野市在住

林 辰雄 (第38回平成2年卒) 広島県尾道市在住

### ご冥福をお祈り申し上げます (訃報)

松田秀之 (第5回昭和32年卒) 平成25年9月6日逝去

中田常雄 (第1回昭和26年卒) 平成26年2月25日逝去

### おめでとうございます

中央大学学員会埼玉支部川越白門会会長 松永勝治 (就任)

中央大学学員会平成26年度表彰 金川 護 (受賞)

## 情報あれば連絡を！

間もなく白門化学クラブは創立40周年を迎えます。しかし、活動の記録や役員の記録などほとんど残っておりません。この機会に少しでも過去の記録を整えたいと思っています。資料をお持ちの方やエピソードなどご存知の方は下記までご連絡ください。

〒142-0041 東京都品川区戸越6-7-12

電話・FAX番号 03-3784-0395

メールアドレス ta2nobu4ge@yahoo.co.jp

根津達郎 (15回生)

なお、資料が整えば、40周年記念誌を造ろうという案もでています。皆様のご協力をお願いいたします。

表紙写真 (上)	映画「はやぶさ 遙かなる帰還」(東映 2012年) 東映東京撮影所スタジオにおける「はやぶさ 実物復元模型」による撮影風景 模型製作: 日本エンジニアリングモデル(株) 代表取締役 佐藤 義明 (第11回 昭和38年卒)
表紙写真 (下)	動く模型>ジェットエンジン模型 (YouTube) 日本エンジニアリングモデル(株) HP ( <a href="http://www.jemco.biz/model/index.html">http://www.jemco.biz/model/index.html</a> )

## 白門化学クラブ支部の皆様へ

一年ぶりに会報第9号をお届けします。この号は、3月に発行予定でしたが、編集準備に入った2月に、当支部最高顧問中田常雄先生がご逝去されました。急遽、追悼文集を作成することしました。6月の総会・中田先生を偲ぶ会で、寄稿いただいた追悼文集と中田家より提供いただいた「我が人生・一代記」を参加の皆様にご披露しました。

総会へは、就任早々でご多忙な中、学校法人中央大学理事長 深澤 武久先生より

中田先生のご生前のご功績を讃え、深く敬意を表します。

貴支部の皆様が中田先生のご遺志を引き継がれ、

今後より一層ご活躍されることを心より祈念いたします。

との祝辞を頂きました。

平成26年度第一回目の第9号は、例年通り9月末発行を目標に編集を進めていました。その脱稿寸前に、文部科学省から「スーパーグローバル大学」37校が発表され、我が中央大学は落選というニュースが流れ、このことがマスコミに大きく取り上げられました。

これらの報道に接した私たちは、これまで何となく抱いていた母校に対する不安が現実となったような気がしました。その直後、新学長選出が報じられました。

これを区切りとして皆様への挨拶文を書いています。

さて、ひょんなことから佐藤義明会員の創業した会社が、映画「はやぶさ 遙かな帰還」撮影用の模型を製作したことを知り、その撮影時の写真を提供いただきました。

後継の「はやぶさ2」は今年11月に打ち上げられる予定です。目標のC型小惑星からの帰還は2020年末ー東京オリンピック・パラリンピック開催の年とされています。

暗黒の空間に行く小さな衛星に変わらぬエールを送り続けたいと思います。

当然のことですが、これからの中央大学に熱烈なるエールを送ろうではありませんか。

支部長 堀中 新一

幹事長 近藤 明義



**中央大学後楽園キャンパス最寄駅**  
**東京メトロ丸の内線後楽園駅改札口**  
東京ドームなど後楽園ドームシティへの  
行楽客などの一日平均乗降人員は約6万人  
である。プラットホームから階段を下りて  
くると、正面の柱の日本大学の広告パネル  
が改札口に向かう乗客の目に入る。

### 第33回総会・中田先生を偲ぶ会報告

「平成26年度第33回白門化学クラブ支部総会」は、6月21日（土）14：00より中央大学後楽園キャンパスで行なわれた。近藤明義幹事長の司会で物故者への黙祷から始まり、次の支部長挨拶では堀中新一支部長より諸事情で大学や学会から今日出席いただけなかった事、今日出席いただけた皆様へのお礼と今後のさらなる協力依頼が述べられました。議長選出に移り、橋澤 晃様が選出され議事に移る。前年度の活動報告・決算報告・監査報告（5頁）が承認され、今年度の活動計画・予算（6頁）も承認されました。最後に平成26～28年度の支部役員（7頁）の選出が行われ、現在の役員全員が留任でさらに会計と幹事を補充することで承認された。

会場を食堂に移し、15：10より「中田先生を偲ぶ会」が田澤和久幹事の司会で始まった。支部長あいさつに続き親族のあいさつはご息女の美和子さんより行われ、偲ぶ会開催のお礼や旧交を温め、皆様が交流して下さることが父も喜んでくれると思います、と言うお言葉を頂きました。続いてご子息の哲史さん・奥様の定子様の順におこなわれ、それぞれあたたかいお言葉や先生の思い出を語られました。献杯は顧問の牧 吉雄様の音頭で行われた。来賓あいさつでは応用化学科代表として石塚盛雄教授が行い、中央125年の歴史の中で理工学部は65年の伝統を築き上げたことなどをお話くださった。また、顧問の栗原 功様からは中田先生との個人的交流や裏話など楽しくお話しいただいた。

歓談が進む中、多数の参加者から中田先生の思い出話やエピソードなどが語られ、改めて中田先生の偉大さを感じ取ることができた。最後に惜別の歌と校歌を全員で歌い盛り上がった雰囲気の中で会を閉じた。

（幹事 根津 達郎）

中田先生を偲ぶ会のスナップ写真はホームページに掲載します。



第33回(平成26年度)総会・中田先生を偲ぶ会出席者

ご来賓

中央大学工学部応用化学科 学科代表 教授 石塚 盛雄 様

会員および同窓生(敬称略)

第1回	昭和28年卒(1953)	牧 吉雄 小宮山 修一
第5回	昭和32年卒(1957)	金壽 幸男 岡本 義隆
第7回	昭和34年卒(1959)	栗原 功 田中 義暉 富田 浩郷 八田 幹雄
第8回	昭和35年卒(1960)	橋澤 晃 白川 勇 江本 房利 野口 茂司
第9回	昭和36年卒(1961)	永井 仁
第10回	昭和37年卒(1962)	堀中 新一
第11回	昭和38年卒(1963)	滝沢 孝一 松永 勝治 大石 愛裕 鳥居 政雄 森下 悟
第13回	昭和40年卒(1965)	近藤 明義 渡辺 克洋 阿部 富男
第14回	昭和41年卒(1966)	大賀 文博
第15回	昭和42年卒(1967)	根津 達郎 山王丸 政美 大嶋 久義 井手 俊二 横井誠之輔
第16回	昭和43年卒(1968)	林 正道 峯岸 修三
第17回	昭和44年卒(1969)	我妻 一美 高橋 壽雄 米谷 章
第18回	昭和45年卒(1970)	高橋 雅彦
第19回	昭和46年卒(1971)	兼子 譲
第25回	昭和52年卒(1977)	柳奥 茂樹 佐々木 利夫 佐藤 博
第27回	昭和54年卒(1979)	本田 善幹
第29回	昭和56年卒(1981)	田澤 和久
第30回	昭和57年卒(1982)	飯田 宗孝
第32回	昭和59年卒(1984)	瀬戸 晶成
第35回	昭和62年卒(1987)	住吉 宏明 中村雅俊 平 栄一郎
第38回	平成2年卒(1990)	林 辰雄 小池 寛之 有山 康之
第39回	平成3年卒(1991)	伊東 秀和
第44回	平成8年卒(1996)	日高 章博

## 平成25年度活動報告（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

### 1. 白門化学クラブ会報の発行

白門化学クラブ会報第8号は、平成25年度総会特集として、9月末に発行しました。（240通発送）  
第9号は諸般の事情により発行を延期し、平成25年度総会および中田先生を偲ぶ会（6月開催）の案内を、総会出欠通知書を同封し、平成26年3月下旬に発送しました。（235通発送）

### 2. 支部ホームページの運用

会報第8号（会計報告等を削除）をアップしました。

### 3. 平成25年度総会・講演会・懇親会の開催

平成25年6月15日（土）に中央大学駿河台記念館および龍名館本館で開催しました。会の様子は会員時報に投稿しました。

### 4. 平成26年度総会および中田先生を偲ぶ会準備

平成26年6月21日（土）、後樂園キャンパスで開催することとし準備を進めました。  
これに伴い、「中田先生を偲ぶ」という内容で会員の皆様へ投稿をお願いしました。

## 平成25年度決算報告（自 平成25年4月1日～至 平成26年3月31日）

（単位：円）

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
総会会費	222,000		総会費	239,474	懇親会費等
会員会補助費 1	50,000	支部活動	支部会報発行費	39,135	第8号
会員会補助費 2	6,000	会費納入協力金	広告費	15,000	会員時報年賀
寄付金	10,000		会議費	37,250	幹事会
利息	76		通信費	20,860	総会葉書等
収入合計	288,076		交際費	15,000	中田先生逝去生花代
前年度繰越金	488,781		雑費	4,088	
			支出合計	371,227	
			翌年度繰越金	405,630	
合計	776,857		合計	776,857	

本会計報告には、平成26年6月の「総会及び中田先生を偲ぶ会」に関わる費用の一部を当年度分として計上致しました。

平成26年6月2日 支部長 堀中新一 会計 大嶋久義  
上記について監査したところ、会計処理はすべて適正に処理されていることを認めます。

平成26年6月9日 監査 滝沢孝一 峯岸修三

## 平成26年度活動計画（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

1. 平成26年度総会の開催（6月21日（土）実施）
2. 白門化学クラブ会報第9号の発行  
会報第9号は、平成26年度総会特集・中田先生追悼号として9月末に発行します。（240通作成予定）
3. 支部ホームページの運用と改善  
会員専用の通信、交流手段として活用出来るようホームページ構成の改良を行います。
4. 平成27年度総会準備  
平成27年春季の開催として準備を進めます。従来同様、講演会・総会・懇親会という構成とします。  
平成27年3月に総会案内を、総会出欠通知葉書を発送します。
5. 白門化学クラブ設立40周年記念誌発行準備  
来る平成28年発行を目標に原稿募集を開始します。
6. 中央大学学会、支部活動への参加  
徐々に学会行事参加、他支部との交流を進めることとします。
7. 支部運営の新世代への移行準備と新会員へのPR  
次回役員改選の平成28年度を目標に準備を進めます。  
広報の具体的な方策は学会事務局との相談によることとします。

## 平成26年度予算（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（単位：円）

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
総会会費	240,000	5000円×48名	総会費	200,000	懇親会費等
学会会補助費	50,000	支部活動	支部会報発行費	40,000	1回発行
寄付金	30,000		広告費	15,000	会員時報年賀
			会議費	25,000	幹事会・監査
			通信費	20,000	総会葉書等
収入合計	320,000		交際費	10,000	行事参加等
前年度繰越金	405,630		HP維持管理費	10,000	
			雑費	5,000	
			支出合計	325,000	
			翌年度繰越金	400,630	
合計	725,630		合計	725,630	

平成 26年 6月 10日 中央大学学会白門化学クラブ支部  
 支部長 堀中新一  
 会計担当幹事 大嶋久義

白門化学クラブ支部役員 (任期 平成26年度総会～平成28年度総会)

幹事

堀中 新一	再	昭和37年卒 (第10回)
近藤 明義	再	昭和40年卒 (第13回)
根津 達郎	再	昭和42年卒 (第15回)
林 正道	再	昭和43年卒 (第16回)
柳奥 茂樹	再	昭和52年卒 (第25回)
田澤 和久	再	昭和56年卒 (第29回)
瀬戸 晶成	再	昭和59年卒 (第32回)
住吉 宏明	再	昭和62年卒 (第35回)

2名期內補充

会計

大嶋 久義	再	昭和42年卒 (第15回)
-------	---	---------------

1名期內補充

会計監査

滝沢 孝一	再	昭和38年卒 (第11回)
峯岸 修三	再	昭和43年卒 (第16回)

顧問

牧 吉雄		昭和28年卒 (第1回)
栗原 功		昭和34年卒 (第7回)

中央大学学員会 (任期 平成26年7月1日～平成29年6月30日)

幹事 堀中 新一

協議員 近藤 明義 大嶋 久義 柳奥 茂樹 住吉 宏明

中央大学 (任期 平成25年11月1日～平成29年10月31日)

商議員 堀中 新一

## 白門化学クラブ総会葉書近況報告・コメント(平成26年6月18日現在)(敬称略・順不同)

秋山正雄 (4S31 平塚市)	一人で外出が出来なくなりました。皆様に宜しくお伝え下さい。
宮川弘一 (31S58 茅ヶ崎市)	6月18日～23日まで出張となり調整が付きません。残念ですが欠席させていただきます。
向坂嘉浩 (8S35 豊橋市)	幹事ご苦労様です。小生妻の菩提を弔うことと日々の家事に追われています。最近足がめっきり弱くなりました。体力の衰えを痛感しています。
池田正博 (11S38 長野市)	中田先生のご逝去を知り、驚いております。謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈りいたします。
駒澤廣志 (7S34 戸田市)	中田さんの声が聞けなくなったことが残念です。いつもお世話様です。
村山永次 (2S29 東京都瑞穂町)	寂しい庵にて一人生活しています。寒くなる12月中旬～3月半ばは、ここ9年間沖縄の小室を借りて過ごして来ましたが、次の冬は体力的に行けそうもありません。中田先生の葬儀にも参加出来ませんでした。3月17日霊前に線香を、そして別れをしてみました。
田中義泰 (9S36 川崎市)	中田先生の御冥福をお祈りします。幹事の皆様御苦労さまです。
西山清治 (11S38 神戸市)	加齢のため目を病んでおりますが、その他は特に問題なく過ごしております。体力維持の目的で軽度のスポーツ(卓球やハイキング)を楽しんでいます。
石川啓一 (6S33 秦野市)	歩行が不十分にて欠席させていただきます。
秋山 堯 (7S34 取手市)	心臓のバイパス手術をし、体力の回復を待って大腸ガンの外科手術を行い、現在静養中です。
小松崎 尚 (12S39 東京都練馬区)	己の身の回りを考えると、西行の「願わくば・・・」に同感する近況です。
熊埜御堂宏實 (17S44 宇佐市)	中田先生のご冥福をお祈りしております。白門化学クラブのご隆盛を。
邑松康光 (12S39 藤枝市)	残念ですが、持病にて、出席出来ません。中田先生の思い出を書かせていただきましたのでよろしく願い致します。
早川勇造 (17S44 長野県御代田町)	特に変わりはありません。田舎暮らしを楽しんでおります。
橋本光史 (20S47 さいたま市)	未利用で廃棄されているルン資源の持続的リサイクルシステムの社会実装について、各大学の先生方の手伝いをしております。リン酸リサイクル推進協議会のHPをご参照下さい。
松枝勝一 (7S34 さいたま市)	当日他の業務があり誠に申し訳御座居ませんが欠席させていただきます。中央俳壇(中央大学)の役員、神田(さいたま市)自治会 役員をしています。高圧ガス国家試験問題解説・千葉県LPガス協会講師。〈故中田常雄先生御逝去に伴う、3月4日(火)所沢市斎場でのお通夜の俳句〉生死とは遠くありけり春の星(生生世世・・・生まれかわりして終わる多くの世又は永遠)梅林の生生世世の水匂ふ
堀木泰之 (11S38 千葉市)	幹事ご苦労様です。
小森尚夫 (7S34 市川市)	体調不良の為欠席させていただきます。
赤羽根 勇 (7S34 さいたま市)	元気で毎日頑張っています。幹事の皆様にはご苦労さまです。
石澤 勇 (7S34 東京都北区)	中田先生の通夜に出席しました。

小西 直 (17S44 我孫子市)	現在入院中です。今年2月2日自宅で転倒しあまり外出しなくなりました。(歩行がむずかしい)代筆 小西聖子
田中一行 (29S56 東京都大田区)	当社(協和エンジニアリング株)の顧問をしていただいたので、通夜と告別式に分かれて参列しました。
志気 勲 (14S41 さいたま市)	まだ現役で仕事をしています。中田先生の事につきましては、このお知らせで初めて知り驚きました。ここ数年、年賀状が途絶えていましたので、心配はしていたのですが…先生の御冥福をお祈り致します。
金井文彦 (8S35 神奈川県葉山町)	体調不良の為欠席致します。皆様によりしくお伝え下さい。
谷口民男 (23S50 福山市)	中田先生の訃報を聞き、大変残念に思っております。先生には就職時に大変お世話になり感謝しております。その会社を昨年退職し、今は親の面倒と公園の草取り等しています。当日は所用があり出席出来ません。よろしくお願い致します。
魚津信夫 (6S33 筑西市)	何をすることも、時間がかかるようになりました。毎週2～3回、約1時間のウォーキングは続けるよう、努力して居ります。
伴 一成 (1S25 松戸市)	朝日カルチャーで日本画を習っています。一応元気で生活しています。都合で出席できませんが皆様によりしくお伝え下さい。
加固正敏 (9S36 狭山市)	中田先生のご逝去を知り、驚きました。先生の温厚なお顔やお声を思い出すとき残念でなりません。先生のご冥福をお祈り申し上げます。折角ご案内頂きましたのに当日は予定があり残念ですが出席出来ません。ご盛会を念じております。
森山貞春 (17S44 東京都墨田区)	地元町会関係の日程とのすり合わせが出来ず欠席いたします。
永田和照 (7S34 岐阜市)	妻と毎月海外旅行(主にクルーズ)に行っております。
布施好子 (25S52 千葉市)	何時も大変お世話になっています。大変申し訳ありませんが、私用の都合で、総会・中田先生の偲ぶ会を欠席させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
杉本八郎 (17S44 京都市)	中田先生の告別式に参列させていただきました。今一度中田先生のお元気な声を聞きたかったためです。私は同志社大学脳科学研究でアルツハイマー病治療等の研究を続けています。今回はすでに重要な会議が入っており欠席します。皆様によりしくお伝え下さい。
萩野太郎 (13S40 小田原市)	ご案内ありがとうございます。残念ですが当日所用があり出席出来ません。皆様によりしくお伝え下さい。
佐須 明 (6S33 小田原市)	当日は、あいにく地域の行事があり出席できません。よろしく願いいたします。
椎名甲子夫 (24S51福生市)	申し訳ありませんが、仕事の都合がつかず欠席させていただきます。中田先生がお亡くなりになりましたことはたいへん残念であり哀しいことですが、ご冥福をお祈り申し上げます。
千葉 享 (7S34 新潟市)	拝啓 いつも御連絡有難うございます。中田先生の御逝去、初めて知りました。五十数年前、学生時代の教えを思い起こして居ります。心から御冥福お祈り申し上げます。会合は遠路の為欠席させて戴きますのでよろしく御願い申し上げます。 敬具
川上洋一 (6S33 横浜市)	薫風の候、総会・中田先生を偲ぶ会のご案内ありがとうございます。残念ですが得意先協力会総会のため欠席させていただきます。中田先生は先生として先輩として常に私たちを笑顔で迎えて入れてくれた、かけがえのない大先輩です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。
関口 勲 (6S33 多摩市)	ご苦労様です。当日は都合により不参加で申し訳ありません。原稿は文字数オーバーになりましたが、少々力がいりました。宜しく願いします。

岩下誠司 (24S51 さいたま市)	中田先生のはつらつとしたお姿を思い出すと悲しみが増してきます。ご冥福をお祈りします。
岩崎洋介 (7S34 東京都新宿区)	中田先生が亡くなられた事を知り大変残念でなりません。せめてもう一度お会い出来、お話ができたらと思いが募ります。沢山に戴きました思い出、ご指導等ありがとうございました。
玉川智也 (8S35 松戸市)	体調不良の為欠席致します。ご盛會を祈ります。工業化学科同窓會と合体される事を望みます。
藤野 勉 (7S34 横浜市)	いつもご案内有難う御座います。出席せず申し分ありません。會報は興味深く読ませて頂いています。中田先生が逝去され寂しく、残念です。我々(7回生)のクラス會にも良く参加して戴きました。また就職時には、本当に、親身になって皆なお世話して戴いたと思います。心よりお礼を申し上げます。有難うございました。ご冥福をお祈りいたします。
水野保彦 (19S46 各務原市)	医薬品製造コンサルタントとして企業・大学の支援を行っています。
玉村雅夫 (18S45 川崎市)	元気で過ごしておりますが、当日は所用があり大変残念ですが欠席します。
富樫繁太郎 (1S28 三鷹市)	妻の入院日と重なるため出席出来なくなりましたので、悪しからずお許し下さい。
茂木達雄 (1S28立川市)	体調もあり失礼します。盛會を祈ります。
杉本美代子 (18S45 柏市)	ご苦勞様です。ちょっと体調を崩しております。中田先生は残念でした(年賀状のやりとりはしてはしておりましたが)。
金川 護 (8S35 横浜市)	中大技術士會は創立10年になります。私はこの10年間、初代會長を務めてきましたが、5月31日の總會で退任致します。いろいろお世話になった皆様に感謝致します。
増田哲彦 (27S54 堺市)	名古屋での化学會社(シナネンゼオミック)の勤務も終わり、現在は親會社(シナネン)で、化学會社も含め事業會社全体の經營を担当しております。部署はグローバル本部です！国内だけでなく海外事業も積極的にやっけていこうと思っております。皆様の御支援よろしくお願ひいたします。
柴 眞 (7S34 つくば市)	元気にやっています。
平林夕佳 (43H7 東京都大田区)	当日に仕事が入っており休むことができません。みなさんでどうぞ中田先生の思い出話に花を咲かせて下さい。
跡部真人 (41H5横浜市)	横浜國大の教員として日々教育研究に邁進しております。母校中央大学の發展をお祈り致しております。
永井 仁 (9S36 鎌倉市)	金川さんの主催されているCO2削減の委員會と南太平洋に筏で太陽光発電委員會に出させて頂いています。
鳥居政雄 (11S38 久喜市)	今は月1回、おもちゃの病院にボランティアで参加しております。あとは畑をやっておりこれからは草との競争になります。次に、シルバー人材センターの仕事があるときは、植木關係の仕事をしております。皆さんお元気で
橋澤 晃 (8S35 佐倉市)	ちょっとバタンしてましたので原稿に手がとどかず失礼致します。よろしくお願ひします。
大石愛祐 (11S38 松戸市)	中田先生の元氣な姿をいつも思い出します。健康維持のため、朝は6時30分よりラジオ体操、午前中に5,000歩以上の散歩を日課としています。そのおかげで先日7人會で1泊2日で開國の港伊豆急下田へ旅行が出来ました。金目鯛が日本一水揚げの場でもあり、歴史上の人物が多数活躍した場所・温泉町でもあり一度お出掛け下さい。
八田幹雄 (7S34 横浜市)	残された時間はせまって来ましたが、相変わらず貧乏暇なしでがんばっております。

江本房利 (8S35 さいたま市)	お世話になります。体力の低下を感じながら、ゆるゆると過ごしております。難聴がひどくなり、皆様との対話や、講演の聴講に事欠くと思っておりますが、元気なお顔を拝見するだけでもと思って出席させていただきます。
栗原 功 (7S34 平塚市)	庭木の手入れ、孫の相手他、食料品などの買物で毎日5～10km自転車で動きまわり元気に過ごしています。
山王丸政美 (15S42 千葉市)	冬は北海道で鹿を狩っています。
森下 悟 (11S38 町田市)	相変わらずマスターズ水泳、野鳥撮影と、のほほん余生を送っています。
高橋雅彦 (18S45 尾道市)	42年間勤めた会社を卒業して2年になります。家内と趣味を広げていっています。
田中義暉 (7S34日野市)	天皇陛下の「傘寿」を記念して、乾通りの桜見物が一般公開され、長蛇の人・ひとを見て参りました。国立市(本校)のNHK高等学園の囲碁教室へ通って楽しい囲碁を打っております。又、歌舞伎座や国立劇場へも行ってお楽しみしております。
大賀文博 (14S41 所沢市)	幹事の方々ご苦労様です。
渡辺克洋 (13S40 北杜市)	年齢を感じながらも元気に過ごしています。
我妻一美 (17S44 横浜市)	中田先生の突然の訃報を知り驚いております。長らく家を空けておりました本日までご無礼致してしまいました。中田先生のご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご家族、ご遺族の皆様にご挨拶を申し上げます。
阿部富男 (13S40 東京都北区)	毎日元気で過ごしております。
松永勝治 (11S38 川越市)	今年度より川越白門会の会長に就任しました。
白川 勇(8S35 鹿嶋市)	現在も現役で張り切っています。(株)白川商店、勇学企画の代表取締役社長 趣味はゴルフ、囲碁、野菜づくり 公職も多数
松田秀之(5S32 群馬県大泉町)	長年に渡り大変お世話になりありがとうございました。約三年間透析生活をして居りましたが、9月6日に他界(78才)致しました。ご連絡申し上げます。お身大切になさってください。(松田みどり)
<b>ご連絡頂いた方々</b> 金壽幸男(5S32 鎌倉市) 本田善幹(27S54 八千代市) 野口茂司(8S35 松阪市) 伊東秀和(39H3さいたま市) 小宮山修一(1S28 東京都北区) 井手俊二(15S42 東京都杉並区) 富田浩郷(7S34 本庄市) 佐々木利夫(25S52 秦野市) 大賀文博(14S41所沢市) 高橋壽雄(17S44 北本市) 兼子 譲(19S46 横須賀市) 平林昌子(45H9 東京都豊島区) 石和田義光(6S33 我孫子市) 日下博行(9S36 四日市市) 田中鐵朗(6S33 神奈川県二宮町) 田口利明(26S53 狭山市) 本間紀男(12S39 越谷市) 嵯峨是人(8S35 横浜市) 清水克時(5S32 東京都北区) 小野寺教泰(7S34 札幌市) 杉本剛一(12S39 宇都宮市) 村上知明(15S42 枚方市) 鶴岡健一郎(7S34 町田市) 武訓正(20S47 神奈川県松田町) 岡部彰二(25S52 川崎市) 喜田 正(5S32 行田市) 小西和也(17S44 我孫子市) 若松孝昌(11S38 東京都品川区) 飯田宗孝(30S57 ふじみ野市)	

## 惜 別

## 中田常雄先生を偲んで

中央大学名誉教授 関 口 勲 (第6回生 昭和33年卒 多摩市在住)

中央大学工学部工業化学科(旧)は1949年4月1日に新設され、そして本学科における第1回目の卒業生(1953年3月)が中田先生でありました。先生は1953年4月に本学に着任し、1997年3月に定年退職を迎えました。このように先生は教育者(化学工学系)であると同時に本学科(1989年度、応用化学科に名称変更)における大先輩でありました。

先生のお話によれば、第1回生50名は1948年4月に中央工業専門学校工業物理学科(戦前、航空機科)に入学し、さらに1949年度の新制大学工学部工業化学科への入試を経て入学した学生がほとんどで、旧制中学から新制高校1年間在学した学生が約5%であったそうです。また本学科発足時の教養化学実験や講義は駿河台校舎であったが、翌年には講堂2、3階での講義となりました。先生の本学着任前、1951年10月には工学部全体としてお茶の水校舎(通称、元町校舎)へ移転し、1953年度から講義はすべて後楽園校舎で行われました。この頃には研究室や学生実験室が整い、先生の化学工学系の研究・実験室は地下室(傾斜地の校舎のため窓があった)に設置されました。

以上のような背景から先生の学生時代、あるいは本学着任の頃では、本学科の揺籃期と重なってお茶の水校舎にて過ごされました。また研究・実験室は化学工学系学生実験も行う窮屈なスペースでありましたが、ここでは先生の闊達な性格、あるいは学生に対する厳しい指導と同時に、大先輩としての愛情あふれるお姿がありました。1963年2月には新校舎(後楽園キャンパス)の竣工に伴って先生の研究室は1号館6階へ、さらに理工学部の増築により5号館3階(1980年秋に竣工)へ移転しました。

先生の研究室では、液相内での液滴の生成と物質移動(液・液分散系)が課題であって、抽出操作に関連するユニークなベンチュリー管式抽出装置の開発、これに続いて液・液系においてノズルからの液滴の生成機構が研究の主体でした。当時の口頭発表は大きなケント紙に図表をマジックペンで書いて発表する形式でありましたので、夜遅くまで発表用の図表を準備するのが楽しそうでした。また化学工学会では産業部門委員会の委員として若手エンジニアの育成にも大きな関心をもって積極的に活動していました。他の研究室に比べて中田研究室では企業関係者や卒業生、それに在校生の出入りが多く、いろいろと話題性に際限がありません。

中田先生は学会、協会、業界あるいは個人との幅広いご縁があり、その多才ぶりを発揮され、先生の足跡を思い起こされる方々が多いものと存じますが、誠に残念なお別れとなってしまうました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 中田先生の思い出

栗原 功 (第7回 昭和34年卒 平塚市在住)

中田先生に始めてお会いしたのは、大学4年生の春 卒論で化学工学を専攻した時で、それ以来55年以上になりますが、色々ご指導を頂き兄貴のように親しく、お付き合いをさせて頂きました。

中央大学駿河台記念館での同期会



思い出は沢山ありますが、その中から3つの事を書く事にしました。

### (1) 先生の講師昇格

昭和39年に私の結婚式の司会を先生にお願いしました。

後で知ったのですが、その日が『先生の講師になられるか審査の日』でした。

幸いにも、先生は講師に昇格されました。

新婚旅行中にその話をお聞きしましたので、父親に頼み先生のお宅へお祝いを届けて貰いました。

### (2) 白門化学クラブ支部の件

昭和50年当時の工学部では、どこも大学の同窓会である『学会』に入会している所が無かったので、化学科卒業生相互の更なる親睦を計り、且つ他学部学会支部と連携を保ち、大学の興隆に寄与する事などを目的に、中田先生、牧さん 他の諸先輩と一緒に『白門化学クラブ支部 (仮称)』を創立する打ち合わせ会を数回行い、昭和51年に『申請書』を大学学会に提出した結果、同年5月の総会で入会を認められ今日に至っています。

私は支部創立以来、先生から役員を仰せつかり、最後には支部長も10年間

努めさせて頂きましたが、その間 多くの先輩・後輩の方々と知り合いになれて本当に良かったと思っています。

(3) 7回生と旅行, 他

先生とは大学4年生の時に海水浴や群馬の霧積温泉、伊豆宇佐美温泉、南房総・花街道ツアーなどに一泊旅行をしました。

先生はビールがお好きで、又 美声に乗せてカラオケも歌っていただきました。更に、年3~4回お茶の水の中央大学記念館1階レストラン『プリオール』で開催する集まりを楽しみにされていて、いつも参加して頂き 参加者とおそくまで歓談されていました。先生と最後に会ったのは、昨年9月に入院されていた介護施設『ニチイ』でした。一日も早く快癒される為 リハビリに励んでおられましたので、本当に残念に思っています。先生からの電話『栗原君か、おれ おれ 中田 中田 元気かい』の声をもう一度聞きたかったです。ご冥福をお祈りいたします。

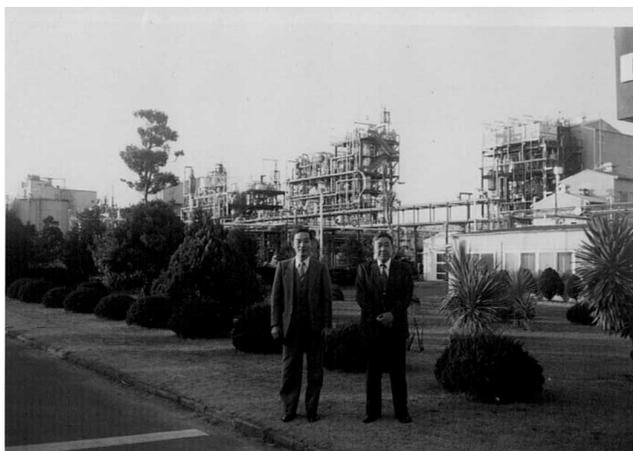
## 良きご縁に感謝

田 中 義 暉 (第7回 昭和34年卒 日野市在住)

卒論で東畑教授の「化学工学」を専攻し、その時助手をされておりました中田先生の実験研究の場で、高分子化学の古沢教授に会い、教授の教え子が研究・特許をやっている武蔵野化学研究所が、協和発酵・日本鉱業・クラレとで合弁会社・協和ガス化学工業を設立し、天然ガスを原料として青酸誘導体・メタノール・アセチレン・ビニロンなどを製造するとの会社紹介が中田先生から有り、就職しました。その年の9月に新潟県中条町に赴任しました。そして建設・製造に当たり広い田圃が一大工業地帯となりました。10年ほど勤務しました。

それから北茨城市磯原に武蔵野化学の工場建設・製造に当たりました。近くには野口雨情の生家や横山大観・岡倉天心の六角堂があります。先生には工場見学にも来てもらい、後輩の紹介を願ったりして6~7人入社させ、部課長にも成り、優秀な女子も来ました。

私が磯原に居た時、娘は東京



に居ました。先生の元に部外講師として(株)キモトの社長が来ておまして、先生の紹介で娘を入社させて頂きました。そして、楽しい行事や海外旅行などOL時代を送らせて頂きました。時折、先生が来られて、社長さんの所へご案内したよ、お元気で楽しい話をされていたよ、と聞き、大変嬉しく思い、安心しました。

私が65年ほど前の、昭和23年の小学校5～6年生ごろに通った、昭島市の玉川小学校に、昨年4月に孫娘が入学しました。その旨を先生に伝えておきました。そして、2～30代の若いお父さん・お母さん達に混って、我々夫婦も講堂での記念写真を撮って貰いました。校長先生と懐かしい昔話をしてきました。

3月の告別式では受付の林さん・大嶋さんと共に、ご収骨をさせて頂きました。有難うございました。

先生のお力添えで、私も娘も、良い会社で仕事ができ、人間関係でも恵まれ、この良きご縁を心から感謝しております。

現在は、国立市のNHK高等学園の囲碁教室に通って、囲碁大好き！ 歌舞伎大好き！と元気にやっております。

誠に、沢山のご厚情を有難うございました。

## 中田先生の思い出

八 田 幹 夫 (第7回 昭和34年卒 横浜市在住)

私が中田先生に最初にお目にかかったのは大学3年から4年の間の春季休みの時でした。というのは、級友の故鳥海君から電話があり、自分は現在東畑先生の研究室で、研究を手伝っているが、東畑先生の意向もあり、是非私にも参加してほしいとのことでした。私も4年の卒論は化学工学をやりたいと思っていたので、丁度機会だと思って参加したわけです。

そこで、中田先生は助手として毎日化学工学の研究室におられました。手伝った研究テーマは、調湿であり、引続いて4年になった時の卒論のテーマも同じ調湿でありました。したがって、中田先生のテーマとは異なりましたが、とにかく毎日毎日顔を接し種々の点で大変お世話になりました。

その中で、忘れ得ない出来事といえば、林頼三郎総長がなくなられた時に、不謹慎にも、中田先生を中心として研究室の仲間約10名で、軽井沢付近の霧積温泉へ出掛けたことです。実に楽しい思い出であり、他の友人達も中田先生との思い出の中には出てくると思いますが、今でも忘れられません。

また、中田先生は、非常に面倒見のよい方で、卒業の際に多くの方々が就職のお世話になったのではないかと思います。私は、別の縁故関係で就職できましたが、私の事務所の職員については困った時には伺って、数名世話して戴きました。また、顧客の会員の社員

についても世話してもらったことがあります。先生のお宅には、卒業の時に友人数人と所沢の先生宅に伺ったことがあるだけですが、我々の同級の横浜会（現在は中央大学記念館で年に数回8~10名集めており、最近では参加者が徐々に減りつつあるような気がします。）にも時々参加して戴いておりましたが、よくご家族の話をしておられました。

残念ながら、お亡くなりになり寂しい限りです。先生のご冥福を祈りつつ。

## 中田先生の思い出

金 川 護（第8回 昭和35年卒 横浜市在住）

中田先生にはお世話になったことしか思い浮かびません。私が会社の開発部で活性炭の吸着、電気再生、移送の研究をしていた頃です。部下は一人しか居らず、しかも、別のテーマを研究しており、結局一人で何でもやる状態でした。そんな時、ひょっこり、先生が会社に訪ねて来て下さり、私の話を聞いて、早速毎年2、3人の学生さんを卒論実習として派遣して下さいました。お蔭で、かなり研究が進みました。学生さん達には中大生は優秀だと、周りに見せようとして厳しいことを言って、申し訳ないと思っています。中には素晴らしい論文を書いて下さった学生もいます。結局、会社の中でもものになったのは活性炭移送用エゼクターで、活性炭電気再生装置は同様な開発をしていたH社と交渉の上、H社で製造することとなりました。学生さんの受け入れは四年ほど続きました。卒論実習をして下さった学生さん達はそれぞれ良い会社へ就職したようです。学生さん達には卒論実習が社会に出た時の為の勉強になったと思っています。その他にも先生から工業専門学校の講師の話も頂きましたが、これは上司の受けが悪く、お断りしました。大変残念がっておりました。申し訳ありませんでした。先生は卒業生が困っていると、親身になって、何かと助けて下さり、本当に感謝しております。もう四十年近く前の事でしたが、忘れることはできません。中田先生有難うございました。

## 先生との親交

江 本 房 利（第8回 昭和35年卒 さいたま市在住）

中田先生との親交が始まったのは卒業後40年以上経過した後、「白門化学クラブ」に出席してからである。そのきっかけは、平成12年の秋一泊旅行の吾々のクラス会に先生の出席を頂いてから後、クラスの集まり毎に手紙や電話でお誘いしているうちに、先生の方から「白門化学クラブ」に出席してみないかとのお誘いを受けたことにある。

そこで、初めて出席させて貰ったのが、平成15年11月に開催の第24回「白門化学クラブ」で、当日の講演は「杉本八郎」氏の「新薬にかける夢」であった。このとき先生から個別にお話しを聞くことができたが、当校の同窓生に至要な業績を上げ、かつまた杉本氏が京大の客員教授になられたことが大変喜ばしく誇りに思うと言っておられた。

この時以来クラブの会合に参加させて頂いているうちに、先生とより親しくお付き合い頂くようになった。先生のお宅にもお邪魔して色々お話をお聞きする機会も設けて頂いたし、ご自慢の畑の出来具合も見せて貰ったりした。

畑の中では、最近草取りが辛くなったので農薬を使いたいけど、薬を使うと収穫した野菜を娘が貰って呉れなくなるので思案中だと言っておられた。いずれにしても、良い薬を知っていたら教えて呉れとのことだったので、後日さっそく農協に出向き薬種と使用法を調べお報せしたが、結局薬剤は使われなかったようである。

先生の自宅の机の上に年賀状の山を見かけたので枚数をお聞きしたところ、700枚を超えているかなとの事。これに全部返事を出されるのですかと質問したところ、「どんな人であれ、手紙を貰ったら返事をしないと失礼になるので必ず返事を出すことにしている」とのことであった。

卒業後の私の生活に話が及んだ時、君は其処に就職していたの、では〇〇君を知っているかだろう、彼は何年卒の同窓生だよと教えてもらったり、君のクラスに〇〇君が居ただろう、彼は卒業生で化学の教師をしている会のメンバーで時々会って居ると知らされたりした。いやはや先生の記憶力に感服させられたが、そのノウハウは年賀状の山にもあるのかと思ったりした。

いつの頃だったか、「腕を悪くして字が書けなくなったので、来年から年賀状は失礼するよ」と電話で話したことがあるが、「誰にも返事を出す」と言っておられた先生にとって、思うように字が書けなくなった事は大変辛いことだったろうと思う。

先生はいつの時でもにこやかに対応して下さり、お話をしても何となく温かいもので包まれているようなものを感じたが、この様な感じを持たれた方は私だけで無く他にも大勢居られるように思う。

先生のお人柄については、平成9年4月、あの京王プラザホテルで開催された先生の定年退職記念パーティーの挨拶で述べられた次の言葉に凝集していると思う。即ち「研究者では無かったが、良き教師であったと思う」。

先生は学部の一回生であったが、私立大学の新設工学部の卒業生にとって就職は容易ならざるものがあつたと推察される。八回生の私でも願書提出先で「中央大学に工学部が在ったの？」と聞かれたことが在ったことからして、卒業生の就職戦線は平坦では無かつたと思う。

そんな中、先生は後輩たちのために就職先開拓に向けて献身的に東奔西走され、卒業生を実業界に送り込まれた事は誰も否定出来ない事実です。

気軽にかつ親身に学生たちの相談に乗り、何とか学生たちの希望する就職先に生徒を送

り込めた事が「良き教師であった」の言葉になったと推量している。

先生が亡くなられる前の年の初頭、白門化学クラブ支部長の堀中さんとお宅を訪問させて頂いた時、大学での信条の一端をお聞きすることが出来た。それは、先生が一回生として大学に残られる事が決まった時、恩師の須藤教授より「しっかり後輩の面倒を見ろよ」と言われたことが出発点だったとの事。

まさに「教えの庭を地で行かれた」のだと敬服した。

同時に、先生には「無形の素晴らしい宝を残された」と申し上げた。

このあと、お宅訪問のお礼の手紙に、今度の化学クラブには車椅子でも是非出席して下さいと書かせて頂いたが、そのあとの会報か何かで、「次の会には車椅子でも出席する」との先生の決意を見かけたときには嬉しくなった。しかし残念ながら今年の会では元気なお顔を拝見することなくお別れすることになってしまった。

先生の追悼にあたり、何事も経済優先で忙しくなっている現代、献身的に人のお世話をする風潮が失われて来ている今こそ、後輩として先生の生き様を受け継いでゆかねばと心し、尊敬する先輩のご冥福をお祈りする。

## 中田先生の思い出

野口茂司(第8回 昭和35年卒 松阪市在住)

中田先生について特に思い起こされるのは最終講義のときの様子、数百人の学生が咳一つなく、立ち上がる者一人もなく、便所に行く者一人もなく、何時間かの間 講義の終わるまで聞き入っていた姿でした。

自分の研究室をいつも開けっ放して学生が何時でも相談に来られる様にと仰せられ、実行されていた姿。若者の一生を決めるであろう就職を決行されていた姿。中田先生について誰か「こんな先生も中央大学にいる」・・・という本を執筆してくれないかなあ・・・作家はいないかなあ・・・と思ったものですが実行に移せませんでした。

私個人は就職の世話はもちろん故郷に帰ってから名古屋の塗料会社への再就職も世話して頂きました。何年か後、商売を始めた時わざわざ三重県迄来て下さいました。

先生との電話は毎年紅白が終わり新年の電話を戴くのを50年待ち続け(私からの電話を否定され)おめでとう・・・を申し上げる事が出来ました。

先生の足が少し悪くなられ、お見舞いに上がらせて戴きました折の先生の姿が目に焼きついております。もう一度先生をお見舞いに行こうと思いつきながら果たせませんでした。

ここに先生の偲ぶ会を催して戴き深く感謝申し上げます。私も、もう76才ですが上京したら先生の仏前、御墓にお参りさせて戴きたく思っています。

## 中田先生を偲んで

鳥居政雄（第11回 昭和38年卒 久喜市在住）

先生には大変お世話になりました。

会計監査をやらせて頂いた時も何のお役にも立たなかったように思います。あの時（1970年頃）は卒業生に講演をしてもらおう案がなくは無かったように思いますが、まだ早いように思いました。しかし、早すぎることは無かったかも知れません。

兎に角、私が会計監査をやめる時に、先生や役員の皆さんから弁慶の勸進帳の人形を頂きました。それ以来、私は「自分のために嘘をつくな、嘘の全責任は自分で負え」と肝に銘じてきました。先生有難うございました。その頃だったと思います。私の会社で活性汚泥装置の建設がありました。ところが大変な水漏れを起こしました。念の為、これは私の担当ではなかったのですが、中田先生に頼んで建築科の先生を紹介していただきました。その関係で水漏れは止まり活性汚泥装置を無事運転できました。その時の教訓としてどんなに良い設計をしても目を離せば最低のものが作られてしまうのだということを学びました。先生にはいろいろとお世話になりました。

## 思い出の講義

邑松康光（第12回生 昭和39年卒 藤枝市在住）

中田先生には学生時代、化学工学にてご指導を賜り、その後勤務先に学科の後輩を快く多数ご紹介を頂き感謝申し上げます。先生の周りに多くの方々が集まっておられたことは、“人を愛する心、思い遣り”そのものと感じております。

先生との一番の思い出は、成功された経営者の方に学生の授業として講義をしていただき単位とすることを、日本で初めて実施されたことでした。勤務先の社長に話をしてほしいと言われ、少し心配しながら私も聞かせていただいたのですが、学生の真剣な授業態度や質疑応答に拍手喝采と言う結果で安心したことを今でも思い出します。また、先生の評価もいただき、社長の講義は数年間続けることとなり、勤務先の中大卒業生も多数聞く機会を持つことができ、皆感動とともに先生の教育者として“人を愛する心、思い遣り”に心打たれました。

先生の退職に当たり、勤務先の化学科卒業生一同で楽しい会食をさせていただいたことも思い出として大切にしております。先生本当にありがとうございました。

## 中田常雄先生を偲ぶ

大賀 文博 (第14回 昭和41年卒 所沢市在住)

昭和37年4月に中央大学理工学部工業化学科に入学以来、52年の歳月が流れ去りました工業化学科の大きな灯が消えました。私にとって、中田先生との出会いは「化学工学」の教科でした。他の教科の先生と違い、いつもの作業衣、腰にタオルを下げ、常に飾ることのない言葉で、分かりやすく語る話し方に心が引かれ、授業にのめり込んでいったものでした。四年生の時には卒業論文と就職では大変お世話になりました。私に論文のテーマは「液滴の生成と伝熱のあり方」というものでした。私はT君と二人で組み、化学工学の実験棟で一年間、夕方遅くまで、実験に時間を費やしたものでした。論文の発表会では、我々二人にとっては額に汗を流し頑張ったのですが、あまり良くまとまっていなかったような、苦い経験をしました。

一方、就職に際しては、一年先輩までは景気が良かったようですが、我々の時には急に悪くなり、求人も減少してしまいました。結局、中田先生のお世話により、会社の資本金が一億二千万円程の鍍金会社へ決定して頂きました。この会社には、素晴らしい大先輩が二人居るので、お前も頑張れと励まされました。ところが、一身上の都合（皮膚病にかかり）で一年で退職となりました。ここでまた、中田先生のお蔭で、都立杉並実習所という都立工業高校の生徒が実習するところに入所し、公務員として就職しました。次に、四年後、教員採用試験に合格し、教員として約41年間、都立工業高校の工業化学科の教員として勤めました。この間に中田先生を名誉会長として、関東地方で教員をしている人の集まりを教職員会として立ち上げました。この会は昭和54年に誕生しました。会の内容は、教職員の資質の向上と、幅広い人間となるように研修会や講演会を行い、教養を高める会としてでした。また、新しく教員を目指している学生に、大学に赴いては、時間を戴き語りかけ、新米の先生方の悩み等で指導・助言をしてきました。現在のところ会員は70名近くの方がいます。結成当時から見ますと校長になられた方や現役で校長や副校長で活躍している方もいます。そういう先生方からのご指導のもと、大いに役立つ会だと確信しています。私はたまたま、この会の第3代会長をやり、会の発展のために尽力してきたつもりです。中田先生はこの会が発展するのを楽しみに、年一回の総会を楽しみにしておられ、大学のパイプ役になっておられました。しかし、道なかばで逝去されましたことは残念ではありません。

ところで、我々は忘れてならないことが沢山ある中で、先生の最後の記念講演の事があります。それは新宿にある京王プラザホテルでの講演がいかにも大変素晴らしいものであったかということです。ホテルの方から耳にしたのですが、どんな有名人や政治家であって

も千人以上を越す程の人が講演を聞くために集まることは今まで無いということでした。それほど、中田先生が工業化学科、後に応用化学科の卒業生をはじめ教え子から尊敬された先生は無いのではないのでしょうか。先生の講演の内容は勿論のこと、先生の人柄の素晴らしさに人が集まったことに感動を覚えました。それ程に、工業化学科・応用化学科にとっては大きな財産がなくなったようです。先生はあらゆる人に惜しまれながら去って行かれました。これからも末永く、我々に温かいご指導とご鞭撻をお願いするばかりです。では、先生、ごゆっくりお休み下さい。

## 中田先生に感謝 !!

林 正道 (第16回 昭和43年卒 春日部市在住)

中田先生が中央大学の学生だった1949～1953年は終戦後まだ日本は貧しく、大学進学は一部の裕福な家庭の人々だったと思う。私の叔父は陸軍士官学校60期で終戦になり会社に勤務しながら中央大学の夜間に通い学び直したと聞いていた。私は中央大学卒業後4年間印刷会社に勤めましたが 売り手に値切られない 商品の値段を自社で決められる出版社に入社したいと思い 中田先生に相談に行きました。先生は快く 東京化学同人、共立出版2社を紹介できるがお前はどちらにすると聞かれました。私は「ムーア物理化学上巻」(東京化学同人刊)が教科書だったので先生に東京化学同人を紹介してくださいとお願いしました。その当時東京化学同人は創立10年ほどで出版点数が増えてきており、制作・進行の担当で1971年3月に入社しました。丁度「現代化学」の創刊号が刊行されたばかりでした。藤田重文・東畑平一郎編「化学工学I～IV」、化学工学会編「化学プロセス集成」が刊行されていました。教科書拡販の営業担当にもなり全国の大学に営業に行き 以来36年間東京化学同人で勤務することができました。中田先生ありがとうございました。

## 中田先生の思い出

峯 岸 修 三 (第16回 昭和43年卒 四街道市)

入学してしばらくして、化工の授業の後、先生から「クラスの仲間の名前や顔を覚えたか？」との質問があった。まだまだ慣れた雰囲気ではなく、「化学科の仲間を知らないなんて、情けない」との話から、親睦会を開催された。その時に行ったのが、有志を集めた“狭山青年の家の一泊合宿”でした。

細かいことはあまり記憶にないが、集会場での卓球大会や翌日の早朝散歩や狭山湖畔での語らいなど、先生が音頭を取って、仲間意識を植え付けていった活動が連綿と伝わっているものと、いつも思い続けています。先生は、大学と後輩を大事に、を常に意識して行動されていた。



お蔭で、学生生活から就職の面倒など、公私に亘りお世話になった仲間がたくさんいます。先生の亡き後もこの伝統を守っていくのは後輩たちの使命です。

先生の志を受け継いで活動してまいりましょう。

## 中田先生の思い出

同志社大学脳科学研究科 杉本 八郎 (第17回 昭和44年卒 京都市在住)

もう一度「なー、おめい！」呼んでください

私は本当は昭和43年3月卒業生と同期です。といますのはM先生の実験レポートの提出が1日遅れたために受理していただけませんでした。この1科目の単位取得ができなかったために留年してしまったのです。専門は阿部先生の染料化学でしたので中田先生の直接の研究室ではありません。しかし当時の講義で一番楽しかったのが中田先生の講義でした。そのご縁で私がエーザ



イの人事部に一時異動になったとき学生の採用で中田先生を訪問したときから「なー、おめい！」という中田節に魅せられてしまいました。先生は企業の社長に講義をお願いする教養ゼミを主催されていました。ある時先生はエーザイの内藤晴夫社長に講義をお願いできないかと聞かれまして、社長にお願いしたらOKをもらったのです。いまでも5号館で内藤社長から講義をいただいたことが昨日のように思い出されます。内藤社長は中大の多摩校舎でも講演をいただいています。私は同志社大学脳科学研究に入ったとき大手製薬企業の社長を講師として招聘し学生たちに講義をしていただくトップセミナー・医心塾を開きました。この医心塾は日本のライフサイエンスの中核になる人材を育成することが目標ですが、その原点になっているのは中田先生の教養ゼミなのです。

中田先生は学生の就職活動には本気で取り組んでおられました。そのお陰で中大の学生

はたくさんの恩恵を受けています。その関係で私が驚いたことがひとつあります。先生は紹介した学生が企業に採用されると、必ずその学生をつれて社長にお礼の挨拶に行かれたことです。先生のご紹介である学生がエーザイに採用された時も先生は学生をつれて内藤社長に挨拶にいかれました。これは中々できることではありません。この先生の真摯な行動に私は胸を打たれました。

中田先生にもう一度お会いしたい。そして大変にお世話になりましたお礼を申し上げたい。それと先生が体調を崩されてからお見舞いに行けなかったお詫びを申し述べたい。いつか必ず先生のもとへまいりますのでその時はいつもの素晴らしい笑顔を迎えてください。先生本当にありがとうございました。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

## 中田先生との思い出

我 妻 一 美 (第17回 昭和44年卒 横浜市在住)

白門化学クラブの封筒をあけ、中田先生の訃報を知り、私は勿論ですが家族一同驚きと悲しみで、ただただ呆然と立ち尽くすばかりでした。

「どうした?」「そうか・そうか・・・」と人の話を熱心に耳を傾けご自分のことのように親身になって、いろいろの相談にのってくれる、人情深い先生のお姿をなつかしく思い浮かべています。ここに、中田先生を追悼し、その面影をしのんで先生との思い出を申さなければならぬことは、誠に思いがけないことで、大変残念な次第であります。思い返してみますと、中田先生とのご縁は約50年も前の2部の学生として入学したときから現在まで続いています。

3年間のタイ国バンコックでの海外工場建設の任務を終えて、帰国と同時に受験・合格・南方ボケの中での入学で、昼は食品会社の中央研究所で製造プロセスの開発研究、夜は大学とそんな中での中田先生との出会いでした。会社での新プロセスの開発業務やラボ・B・P・C・P実験等 忙しくて大学の授業が受けられず、ノイローゼ気味になった時期・・・そんな時いつも暖かい励ましとアドバイスをくれたのが中田先生で、そのおかげで大学を続けることができました。また、卒論のご指導も中田先生が引き受けてくださり、就業時間終了後、会社の実験室で夜遅くまで実験し卒論を書き終えることができました。こんな厳しい状況の中での卒論研究についても、先生はいつも笑顔でオープンな姿勢で、わたしたちを指導していただいたことが、昨日のように思い出されます。

大学院に進学したいという気持ちはありましたが、同じ会社で中央研究所と海外赴任との繰返し勤務となりました。その内、家族とともに約25年間の海外勤務（インドネシア工場建設と運転指導、ペルー工場建設と運転指導、ブラジル工場建設と工場管理運営、マレーシア工場長、インドネシア工場長等）を可能にできたのは、ひとえに中田先生の励ま

しとご指導があったからだとあらためて感謝申し上げます。

特に我が家は、私だけではなく子供達まで人生の節目節目にお世話になり、中田先生には感謝の気持ちで一杯です。私の結婚式には、東畑先生と一緒に出席していただき、また、ブラジルのサンパウロに赴任中は実現しませんでした。先生の留学先の候補にも選んでいただきました。また、マレーシア・クアラルンプール赴任時代には、クアラルンプールインターナショナルスクールからの長女の大学進学（上智大学比較文学。卒業後イタリア政府国費給付生としてローマ国立芸術大学留学）にあたっては、日本サイドでの親身なご指導をいただきました。さらに息子の大学進学については、海外赴任中のわれわれ親以上に息子の進路について相談に乗っていただき、息子も自分の本当に進むべき道を見出すことができ、最終的には東京理科大学（建築工学修士）・清水建設㈱と進むことができたこと、息子の結婚式にまでご列席いただきました。

息子の現在赴任先であるシンガポールから、中田先生の突然の訃報で、とても驚いていることと、お別れにいけないことを残念に思っており、シンガポールから先生のご冥福をお祈りしていますとの伝言がありました。

ご遺族の方々は、さぞかしお嘆きのことでしょう。しかし、奥様はもとより、立派に成人されたお子様が先生の後を守られています。中田先生、ここに謹んで逝去を悼み生前の教えやご指導、お世話いただいたことに対しあらためてお礼を申し上げます。どうか安らかにお休みください。心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

## 中田先生との思い出

柳 奥 茂 樹（第25回 昭和52年卒 浦安市在住）

中田先生に初めてお会いしたのは、3年生になってからだった。3年生の履修単位である「化学工学」の授業を受けてからである。私の父親が、中央大学の職員をしていた関係で、入学当初から先生の存在は知っていた。父親による人物像は、「面倒見がよく、気さくなとても良い先生がいる。化学科の1回生でもある。何か相談したいことがあれば、親身になって相談に乗ってくれる。」ということであった。したがって、お会いする以前から親しみを持っていたことから、初めてお会いした感は全くなかった。そうはいっても敷居は高く、なかなか先生と直接話をする機会には恵まれずにいた。

中田先生の受け持つ授業2科目は、「化学科2スペシャル」と呼ばれ、当時は、計算尺・対数表しか認められず、1問のみの出題、無用な数値・条件が羅列され、かつ、自分の学籍番行の百分の一を掛けるという、絶対同じ答えがでないというものであった。本・ノートの参照は可、隣と話をしても可とされていた（当然、そのような暇はなかったが・・・）。追試は認められず、翌年の試験の一発勝負で卒業の「可否」が決まるというものであった。

ため、3年で不合格となった者は一様に「青ざめ」ていた。昭和49年頃には、カシオなどから関数電卓が世に出されており、他の先生はその使用を認めていたが、中田先生は、「将来就職して、化学プラントなどに勤務するエンジニアが、電卓など恥ずかしくて使えるか！計算尺が使えないものは、工学部に来るな！」などといって、一切使用を認めなかった。なぜか私はこのスペシャル2科目を一発で履修でき、実験式などが存在する物理と全く関係のない分野？が性に合っていたこともあり、「中田研究室」で卒論のお世話になることになった。

このようなご縁から先生とお付き合いをさせていただくことになったが、たまたま就職した会社が転勤の少ない（地方に行くことが少ない）社であり、また、先生の勧誘に乗って化学クラブへ入会した同期が多かったということもあり、現在に至るまで幹事のようなことを仰せつかり、ずっと機会あるごとに先生にお会いするチャンスを得た。また、先生の紹介で、後輩も何人かが同じ社に入社するという縁にも恵まれた。仲人をお願いし、結婚してからは、親に会う以上に先生にお会いしていたように思う。本当に面倒見のよい、暖かな人柄で多くの人を引き付けた。私も本当に親身になって面倒を見ていただいた。

今は、ただただご冥福をお祈りするのみである。

## 中田先生との思い出

田 家 鉄 雄（第29回 昭和56年卒 千葉県流山市在住）

私は、数年浪人（家業手伝いをした関係もあり）の上、入学しました。入学当初から中田先生には、発破（やる気を与えられた）をかけて頂きました。「4年で卒業しろよ！そのかわり勉強しないと無理だぞ！」とお会いするたびに助言頂いたことを思い出します。今思えば、私が浪人していることを気遣ってくださったお言葉だったと思います。

特に、有機化学第一（古沢先生）と物理化学第一（児島先生）の単位取得は、超難関とのアドバイスをいただき必死で勉強したことを思い出します。

先生の専門は化学工学でした。非常に難しかったと記憶しておりますが、何故か講義が待ち遠しかった事を思い出します。

先生に教わったことは、一生忘れないでしょう。

例えば、① $RE=Du \rho / \mu$ （乱流/層流）

②次元（単位換算）について、難しいようで簡単な事。

例えば、川の断面積と流速が分かれば単位時間当たりの流量分かる etc.

私にとっては、目から鱗でした。

私は、就職し茨城の（大洗工学センター）で、Na 漏れ等の問題により停止している福井県の高速増殖炉“もんじゅ”の実験炉である“常陽”で、問題になっていた放射化した酸化

粉が生成するメカニズムを帰納的手法で仮説をたて、ガスクロで組成分析をすることにより証明することを計画しましたが、事情により断念せざるをえませんでした。

でも、この仮説はある程度評価されたのです。これは、一重に“物事を科学手的にとらえる。”との先生のご指導の賜物かと思っております。

学食で、先生にお会いしますと必ず、私の前で食事をしてくださったのですが、当時は緊張のあまり汗が流れるは、ドキドキして食べてるようではなかった事も思い出します。

また、先生曰く「スピーチはな、30秒が勝負なんだ！、緊張するが、30秒過ぎると後は楽になりスムーズに行くもんだ。」とおっしゃってた事が、非常に印象深く残っております。

先生、あれは自分に言い聞かせていたのではありませんか？懐かしい思い出です。

ご存命の時には、年賀状に「元気で働いてますか。私は“晴耕雨読”ですぞ！」と万年筆で書いてくださったものを頂きました。

私は、既に還暦を過ぎましたが先生のお教え（お人柄も含め）とともに「時に20歳の青年よりも60歳に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に、始めて人は老いる。」（サミュエル・ウルマンの青春の歌）をモットーに、さらに精進していくことをここに誓います。

先生、お疲れさまでした。ごゆっくりお休みください。本当に、ありがとうございました。

（拡散工学研究室 卒研：化学繊維によるメルカプタンの吸着）

## 中田先生の思い出

伊 東 秀 和（第39回 平成3年卒 さいたま市在住）

中田先生と初めてお会いしたのは1年生の時の拡散工学の授業だったと思います。

甲高く通る声が特徴的で、とても優しく接してくださいました。

その先生の人柄に感銘し4年生の時は迷わず中田研究室を選択し師事を受けました。

私はとても先生に目を掛けていただき早稲田大学の研究室への出向を命じられ、2つの研究室で学ばせていただきました。本当に貴重な体験をさせていただきました。

また、当時の中田研究室はとても雰囲気良く、先生は終始にこやかに甲高い声がいつも研究室に響いておりました。皆で良く真似をしたものです。

本当に毎日が楽しかった。とても懐かしい良い思い出となりました。

今自分があるのは先生のお陰であるといっても過言ではありません。

先生にお会いすることができて本当に良かったです。

本当にありがとうございました。

## 会員投稿

### 44年前の思い出

葉山康雄（第17回 昭和44年卒業）

先日、証明書をいただきに中大を訪れました。大きく変わった学園の中で小さな中庭と植木そしてベンチは変わらず、1号館を見ながら多くの思い出が走馬灯のように思い出されました。卒業から44年・昭和44年卒業という何とも奇遇なめぐりあわせを感じながら、昔を思い出していました。

昭和44年はアポロ月面着陸・大学卒の初任給は3万1千円の時です。学園は全学連による学園紛争の渦中にありました。第17回の卒業生は全員卒業式のない卒業でした。白門の高台から赤門の落城を見る事ができました。理工学部校内は白ヘル、赤ヘル、他校からの学連集団で占拠され、ロックアウト状態でした。化学工学実験棟は小さい非常鉄扉から出入りし、実験装置を守るのに必死でした。本館の実験室や教授の室内は相当ダメージを受けたそうです。

後日、卒業證書は戸田学長先生からの「卒業生への言葉」と共に郵送されてきました。

その卒業証書には、“台湾 葉 庚亮”と記されていました。時代の流れで“中華民国”と記載されるべきであろう国籍を、大学は“台湾”としてくれました。誇り高き台湾民族の人である父が大変感激喜んでいたのを、まるで昨日のように覚えています。実に親孝行できたのです。

戸田学長先生のお言葉は、今、読み返しても教育者としての熱意と卒業生への厳しくも心あふれる励ましに感激を新たにし、中央大学に学んだ幸せをかみしめています。同窓の皆様にごひお読みいただきたく添付しました。

私ごとですが、心臓のバイパスの再閉塞が発見され、これからの治療をどうするかまさに「まな板の上の鯉」状態です。息子は中大理工土木科で「土木都市計画」の研究だそうです。私の最大の夢は二人の孫が白門に入り、社会のために育ってくれたらと願っています。

以下が、中央大学学長 戸田修三先生からの「卒業生へのことば」(昭和44年3月25日付)です。

「全国的な規模で燃えさかっている大学紛争の火の手は、私達の大学にも波及し、春の陽ざしにそむいて 現在学園は冷たく封鎖されている中で、卒業生諸君を社会に送り出さなければならない私達の胸のうちは、いよいよの悲しみと焦りとにどうすることもできません。四年前、希望に充ちあふれて白門をくぐった諸君が、四年後の今日、このような形で本学を巣立っていかうとは恐らく誰一人考えていなかったことでしょう。そのことを思うと、断腸の思いにかられて、しばし言葉もありません。

この四年間の諸君らの学園生活は、終始動乱の渦中にあり、二回にわたる学館斗争、学費斗争、そして今回の常置委員会斗争というように、決してせいひつな状態における研究教育の条件はありませんでした。その意味で、大学が諸君らの期待に応えるところの少なかつたことを反省するとともに、教学の責任の一端を担うものとして、深くお詫びする次第であります。しかし、他面考えてみれば、「静」の中での学究生活だけがすべてではなく、「動」の中で学問を探求し、人生の意義を追求し、社会を論じ苦悩することも、やはり人間が人間として大きく飛躍するための一つの契機になると思います。諸君らがこういった苦悩の中から、なにものかを掴み、社会の発展に寄与することができれば、それも不幸中の幸であったと考えることができるわけであります。

かつて旧制大学においては、大学はエリートの養成機関であり、大学を卒業することによってただちに社会の支配層にランクされることが約束されておりました。しかし、社会構造の変革に伴ない、大衆化し、社会化された今日の大学にあっては、もはやそのような甘美な夢を追い求めることは、余りにも過去の幻影にとらわれた考え方といわなければなりません。諸君らは、恐らくそれぞれの分野において、いかに自己の存在というものが疎外され、大きな組織における単なる部品にしかすぎない自己を発見して、焦り悩む時期が必ずあると思います。それが現実の姿であります。諸君らは単なる部品に終わる運命に閉じこめられているのではなく、大学で学んだ専門的な知識や巾の広い教養によって、社会発展の法則をみきわめる判断力を身につけているのであります。それが諸君らをして、単なる部品ではなく、社会を動かす力たらしめる要素であると思います。そのためには、諸君らは、大学でえた基礎知識を常に磨くために、卒業後も日夜勉強を続けなければなりません。その意味で、余暇をさいて、歴史、哲学、社会思想など、物を考える基礎となる読書の習慣を続けて欲しいと思います。

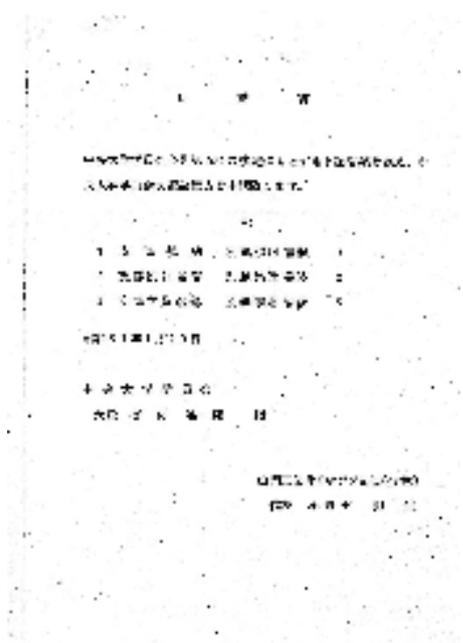
諸君が、いわば温室ともいべき学園を離れて、荒波の多い社会に出れば必ずやいくたの困難に遭遇し、ときには絶望的な思いにかられることもあろうかと思ひます。それにくじけないための不撓不屈の精神もまた必要で、「憂きことのなほこの上に積もれかし、限りある身のかためさん」と詠んだ古人の心意気や、「顧みてなほくば、千万人と雖も吾れいかん」の気概は是非、諸君らにも持って欲しいと思ひます。

また、社会は、決して一握りの支配層やエリートによって構成されているのではなく、むしろ、きわめておびただしい数の大衆にささえられているのであります。諸君らが、かりそめにも大学出を鼻にかけ、大学卒のレッテルを誇示して大衆蔑視の気持を抱いたとすれば、それは大きな誤りであり、社会発展の原動力となる資格はないものと思ひます。たとえ眞の能力と才腕があつたとしても、その姿勢は、指導的地位に立つ者として唾棄すべきものと信じます。あくまでも大衆を信じ、これと手を携えて、お互いに喜びお互いに悩み、その中から正しい方向を纏めていくことが、今後諸君に課せられた使命だと思ひます。

従来の形式的で、かつ、権威主義的な卒業式については、私もかねがね若干の抵抗を感じておりましたが、大学を巣立つ諸君の晴れ晴れしい前途を祈って、なごやかな雰囲気

のもとで、人間的な触れ合いができる卒業式当日の学園は、とても好きであります。それが、今年は無常事態のために、本学八十数年の歴史においてかつてなかった卒業式の中止により、諸君らと手をとりあって別れを惜しむ機会がなくなったことは、かえすがえすも残念であり、一抹の寂しさを禁じえません、その点深くお詫びするとともに、一日も早く大学を暴力と破壊のない正常な姿に戻すとともに、大学改革の現代的課題と真剣にとりくむことによって、新しい大学像を描き、その中で問題を解決していきたいと考えております。

終わりにのぞみ、諸君らの卒業を心から祝うとともに、今後十分に健康に留意されて、社会発展の礎として、各方面で活躍されることを祈念してやみません。卒業後も、ときには母校や教職員のことを思い出して、大学発展の姿に関心を持っていただきたいと思います。卒業生諸君さようなら」



今から 38 年前、支部設立の申請を提出しました。

**編集後記**

集中豪雨、火山噴火、台風など例年になく自然災害が多いように感じますが、皆様にはご健勝にて生活なされていることと拝察いたします。最高顧問の中田先生がお亡くなりになられたので、追悼文の寄稿を呼び掛けたところ、多数のご寄稿を戴きありがとうございました。お蔭様でいつも以上に読み応えのする編集になり、そして何よりも中田先生の偉大さを改めて認識する機会になったと思います。今後ともいろいろな面でご協力いただき、楽しく充実した紙面づくりを心掛けたいと思います。

会報担当幹事 根津達郎